



学修機会の確保と新型コロナウイルス感染症対策との両立

学務担当 林 誠

令和5年を迎えましたが、新型コロナウイルス感染症対策のため、残念ながら今でも一定の制限のある生活を余儀なくされています。3年前は大学の入構さえまならず、すべての授業は遠隔で行われていました。その後、感染症の特性が徐々に明らかになり、ワクチン接種も進んできたため、文部科学省および日本大学本部の指導の下、実習を中心に対面授業を取り入れてきました。しかしながら感染状況には波があり、地域特殊性が認めら

れます。さらに基礎疾患を有している、高齢者と同居しているなど、各個人で生活環境も異なっています。以上のことから、現在も講義授業は対面と遠隔が選択できるハイブリッド形式で対応しています。この形式は、学生自身が学修環境に応じて授業方法を選択できるメリットはありますが、遠隔授業の場合には高い自己管理能力が求められるため、可能な限り対面で受講するように指導しています。

このような状況下にあっても、大学には社会に求められる歯科医師の育成を十分に果たす責任があること変わりありません。そのため、本学では学修機会の十分な確保と感染対策の両立に様々な工夫等を講じながら、これからも柔軟に取り組んでいきたいと考えています。また、対面授業が完全に再開しても、学務委員会では今回の感染症対策で構築したデジタルテクノロジーを積極的に活用した新たな授業展開を視野に入れ、質の高い教育の提供につなげていきたいと考えています。

(教授 歯科保存学第Ⅱ講座)

林真理子理事長、浅井万富常務理事が 歯学部施設を訪問

現在、本学では「学生ファースト」の改革を推進しています。林真理子理事長は就任以降、本学各キャンパスを視察されており、令和4年11月14日に浅井万富常務理事とともに歯学部施設を訪問されました。当日は、本田学部長、筒井事務局長、飯沼病院長との挨拶及び意見交換が行われた後、付属歯科病院及び歯学部新校舎を中心に施設の見学が行われました。

林真理子理事長歯学部 見学のご報告

岡田 明子

令和4年11月14日にご多忙の中、林真理子理事長と浅井万富常務理事が歯学部本館施設を見学されました。飯沼病院長、久部学生課長、星野管財課長と共にご案内役を務めましたので、当日の様子についてご報告申し上げます。林理事長御一行は本部での会議終了後、歯学部へ16時ごろ到着され、まずは歯学部付属歯科病院本館2階専門診療室Ⅱ、小児歯科診療室、3階専門診療室Ⅲ、歯科矯正科診療室を見学されました。また、歯内療法科の武市教授によりマイクロスコープについて、クラウン・ブリッジ科の小峰教授によりCAD/CAMシステムについて詳細な説明がなされました。どの設備も新しく綺麗であるとの感想をいただき、最新の技術にも大変興味を持っておられました。第4、5実習室やスキルラボも見学され、歯学部ならではの学生教育の設備についても大変興味を持っていただきました。

次に、本館Ⅱ期棟の図書館閲覧室、グループスタディールーム、ラウンジなどを見学され、積極的に多くの学生に話しかけられました。17時過ぎではありませんでしたが、多くの学生達が熱心に勉強しており、グループスタディールームでも多くのグループが勉強やディスカッションを繰り広げておりました。林理事長は学生達との会話に多くの時間を割いて、新校舎の使い勝手や日常生活の様子についてフレンドリーに質問され、学生達は物怖じすることなく、新校舎での学生生活に満足している様子を話すなど、

林理事長との会話を楽しんでいました。お忙しい中でも、学生の声をよく聞こうとされるお姿を拝見し、林理事長の「学生ファースト」の理念を改めて感じ取った次第です。歯学部の教員として、これからも学生達が満足して学生生活を送れるよう尽力していきたいと思いをしました。（教授 口腔内科学講座）



武市 収

林真理子理事長をお迎えし、歯科用実体顕微鏡（マイクロスコープ）を用いた最先端歯科治療についてご説明させて頂きました。予め人工歯の中に小器具（リーマーやファイルなど）を破折させたものを準備し、マイクロスコープを用いて観察していただきました。倍率を上げることで、見えにくかった器具が大きく拡大されることを見ていただいたところ、「肉眼では見えないような小さな器具が手に取るように見ることができると、とても驚かれています。とても気さくなお人柄で、根管治療についてご質問をなされるなど、専門外の様々なことにご興味を持たれている様子でした。

(教授 歯科保存学第Ⅱ講座)



小峰 太

先日、林理事長が来校された際に、専門診療室Ⅲにてメタルフリー治療などに使用される最新デジタル機器として導入されたCAD/CAMシステム(CEREC)について紹介しました。

口腔内スキャナーは口腔内の状態をカメラで印象採得し、モニター上に支台歯の歯列と対合歯列および咬合関係が3Dデータとして取り込みます。口腔内スキャナーのメリットは、印象材、咬合採得材、模型材が不要であり、材料費の削減が可能となりSDGsの到達目標達成にも寄与するものです。理事長には、患者さんの口腔内スキャナーによる光学印象、3Dデータがモニター上に取り込まれる様子、クラウンのデジタル設計からCAM機によるミリング加工までを見学して頂きました。理事長は初めてCAD/CAMシステムを拝見した模様で、とても興味深そうに見学されていました。

(教授 歯科補綴学第Ⅲ講座)



黒瀬 日向世

私がラウンジでレポートを書いていたところ、林真理子理事長がいらっしゃいました。理事長という立場でありながらも親しみやすく、優しく話しかけてくださいました。ラウンジはいつでも休憩したり勉強することができます。以前、夜まで残っていた際にテレビで金曜ロードショーが始まり、ラウンジにいた皆で観賞した事があるのもいい思い出です。居心地がよく、落ち着いた雰囲気もありながら、時に真面目に勉強したい時でも活用出来るラウンジを紹介できてよかったです。

(第1学年)



左から2番目が黒瀬日向世さん

篠山 和希

先日、大学図書館内のグループスタディルームで学友と勉強をしていた折、林理事長が視察に来られて、学生達に大学生活の事や施設の事、国家試験の事などを質問されていました。林理事長に実際に会いた感想はテレビやインタビューなどで感じていたよりも物腰が柔らかく、一学生である私達の話にも耳を傾けてくださり、若い世代の意見を吸い上げるための仕組みづくりをされている最中なのだと感じました。歯学部では新校舎も完成し、先生方が様々な取組みをしているので大学が良い方向に向かってくれれば良いと感じます。

(第5学年)



右奥が篠山和希さん

【世界へ発信】なぜオミクロン株は爆発的な感染を引き起こすのか？

— エアロゾル感染における「セルフリーウイルスの重要性」を提唱 —

今井 健一

オミクロン株感染者の唾液中には、野生株やデルタ株と比べて宿主細胞の外に付随していない、いわゆる裸のウイルス（セルフリーウイルス）が大量に含まれていることを世界で初めて明らかにしました。この成果は、世界3大医学雑誌の一つJAMA（米国医師会雑誌）の姉妹誌：JAMA Network Openで1月9日に公表されるとともに、朝日・中日新聞等でも紹介されるに至りました。日本の歯科界からは初のJAMA系雑誌への掲載、世界的に見ても歯科系発の論文はこれまでに数報しかありません。



サンプル処理の様子

新型コロナウイルスは、野生株⇒デルタ株⇒現在のオミクロン株と変異を繰り返す度に感染力が増えています。特に、オミクロン株となつてから世界的な感染爆発となりましたが、その原因がオミクロン株のエアロゾル・空気感染にあることが、感染者の追跡調査から判明していました。しかし、その機序は不明のままです。私たちは、そもそも唾液中のウイルス量が増えているのではないかと素直に考えました。加えて今回は、自分達だけでできる研究を…ということにも拘りました。そこで、名古屋市の高田内科クリニックの高田統夫先生(本学兼任講師)らと協力し、発熱外来にいられた方々から唾液を頂き、初めに唾液中のウイルスを1個単位まで測定できる系を確立しました(この様子は歯界展望 2021年の3, 5月号で紹介)。これまでは、PCRのサイクル数(Ct値)から間接的にウイルス量を推定するのみでした。解析の結果、驚くことにデルタ株は野生株と比べ唾液中に15倍ものウイルスが含まれていることがわかりました(デルタ株:1ml中約1860万個。野生株:約123万個)。そこで一昨年、意気揚々と世界3大医学雑誌に順にチャレンジしてみました(投稿は無料ですしチャレンジは大切!汗)。当時はデルタ株が猛威を振っていましたし、公衆衛生的にもとても重要!なのでもしかして返事がくるのでは? newsか何かにひっかかる?なんて淡い期待をしつつの投稿でしたが、やはり甘すぎでした…。どれも3日ほどであえなく撃沈。その後、JAMA Network Open誌へのトランスファーを勧められました。追加実験、その後のレプリーとのハードな攻防を繰り返しましたが、こちらもうやほり甘くはありませんでした。厳しかった…。

しかしあきらめず(しばしの落胆・放浪後)、さらにオミクロン株の検体を集めるとともに、ひとひねり。今度は遠心操作で唾液を全唾液と細胞成分を除いた上澄み液とに別けて解析してみました。すなわち、どこにウイルスが多く存在するのか?を調べたわけです。ウイルスは細菌と異なり生きた細胞の中でしか増えられません。そのため専門家は、細胞成分に多くのウイルスがいるであろうことを予測していました。しかし、結果は違いました。オミクロン株では、セルフリーウイルスの量が1ml中321万個と多く(野生株18万個、デルタ117万個)、かつ全唾液中に占める割合も、両株より4倍も高かったのです。この結果には驚きました。と同時に、なるほど…だからオミクロン株では、エアロゾル感染が起こるのか!、と思いつきました。外堀を埋めるため、唾液上澄み液には人のDNAは0.5%しか含

まれておらず、しっかり細胞が除去できていることや、私たちのウイルス算定と検査会社のPCRのCt値とがしっかり相関すること等も確認しました。そして論文作成です。前年の敗北を受け、今回は投稿するデータを6つの中から特に重要な2つだけに絞る戦略を立て昨年7月に投稿。リバイスを経て11月末の受理に至りました。あきらめずに検体採取と研究を続けたことで、運よくオミクロン株の重要な性質を発見することが出来ました。

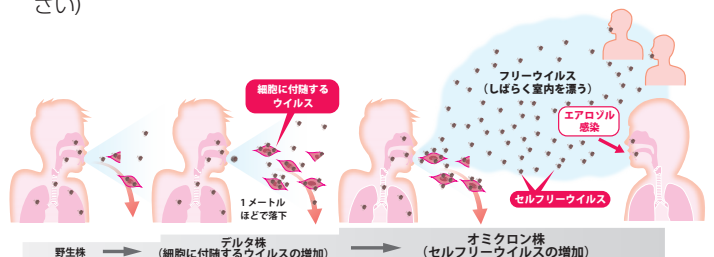
私たちの発見から以下のことが考えられます。唾液中には口腔の細胞がたくさん含まれていますが、細胞内や細胞の周りには多くのウイルスが存在しています。しかし、細胞は直径15マイクロmと大きく重いため、吐き出されたとしても1mほどですぐ落下してしまいます。しかし、セルフリーウイルスはとても小さく(0.1マイクロm)飛沫核として空気中に長時間漂うことが可能なため、エアロゾル感染の原因となります。唾液中のセルフリーウイルスの量が多くなれば、新型コロナウイルスの受容体:AEC 2への結合がしやすくなり感染効率も自然と高まります。今回の成果は、オミクロン株の流行以降、感染者はどこで感染したのかがわからなくなっていることや、大規模クラスターが多発している現状を説明し得るものと考えられます。また、目に見えないエアロゾルに対する感染予防策としての換気の必要性の根拠ともなります。

加えて雑誌の副編集長から、本論文は「エアロゾル・空気感染におけるセルフリーウイルス関与の概念を初めて提唱した」とのお褒めの言葉を頂き、論文のタイトルにも手が加えられ[SARS-CoV-2 Omicron variant in human saliva in cell-free form]といったズバリ言い切る形のタイトルで世界に発表されました。この概念はコロナのみならず、インフルエンザや麻疹、水ぼうそうなどの感染症はもちろんのこと、未知なるウイルスが出現した際に感染対策を企てるための基本概念として適用されるものと考えます。

この2年間、予備実験含め約400名の方々から唾液を頂き解析してきました。世界を激変させてしまった新型コロナウイルスは口腔で増え唾液で感染します。口腔・唾液といえば私たち歯科の専門領域です。しかし、歯科からの研究の貢献度は残念ながら高いとは言えませんでした。今回、本学発の研究でウイルスパンデミックの理解と感染対策に歯科が国際的に貢献できたのでは、と考えています。

検体採取に協力して下さい下さった方々はもちろんのこと、ハードな通常業務に加えて真夏も真冬も野外での唾液検査・研究をサポートして下さい下さったクリニックの皆さん、そして出張自粛期間中の名古屋行きを許可して下さい下さった本田学部長にこの場を借りて感謝申し上げます。

(詳しい研究内容は感染症免疫学講座のHP、または論文をご覧ください)



(教授 感染症免疫学講座)

歯学部における 研究費の現状



研究担当 鈴木 直人

本学部には、学内研究費として佐藤研究費、総合歯学研究所研究費および上村安男・治子研究費があります。佐藤研究費は、本学の創設者である佐藤運雄先生の著書「医学歯学辞典」の

印税を基金として制定されました。その運用基金は、これまでの様々な寄付によって増額され、現在では34億円に達しています。一方、上村安男・治子研究費は故上村安男先生の寄付によって平成9年に制定され、給付金は基金の果実によって賄われ、その運用資金は現在5億860万円になります。学内研究費の2021年度の給付実績は合計で59件となっています。

学内研究費では、令和5年度申請分から成果物の取り扱いを厳格化しました。具体的には、申請した研究内容と著しく内容が異なるものは認めない、遅延証明を提出した場合に限り1年のみ遅延を認めるが当該年度の申請はできない、さらに、それ以上の遅延についてはその後3年間は申請できないなどというものです。これらのことが数多くの論文発表に繋がればと考えています。

本学部では、文部科学省所管の科学研究費助成事業のような学外の研究費についても積極的な獲得を奨励しています。研究委員会では科学研究費助成事業の申請にあたって、できるだけ多く採択されることを目指して事前査読を行っていますが、これによって毎年、採択率は確実に増加し、科学研究費助成事業2021年度の交付実績は合計73件で、日本大学全体では8位の採択率です。

質の高い研究を推進し、多くの業績を上げるためにはより多くの研究費の獲得が必須です。今後は、さらに多くの質の良い研究を推進して多くの業績を発表し、さらなる研究費の獲得をめざすように歯学部として努力してゆくとともに、研究委員会はそのサポートをしていきたいと考えています。

(教授 生化学講座)

修学等支援のための 奨学金について



学生担当 宮崎 真至

学生が経済面でも安心して学習に取り組めるように、日本大学及び歯学部独自の学内奨学金や、学外の奨学金財団による以下の奨学金制度が設けられています。対象となる条件等を確認

したうえで、これらの制度を積極的に活用して下さい。

1. 給付型奨学金

- | |
|--|
| 1) 日本大学特待生: 学業成績優秀にして品行方正な学生に対し、毎年度選考の上、特待生として、いずれかの奨学金を給付(甲種: 授業料1年分相当額の半額及び図書費12万円、乙種: 授業料1年分相当額の半額) |
| 2) 日本大学創立130周年記念奨学金(2種): 経済的理由により学費等の支弁が困難である学部生(年額30万円) |
| 3) 歯学部佐藤奨学金(第1種): 学業成績が優秀な学部生(年額20万円あるいは10万円) |
| 4) 歯学部佐藤奨学金(第2種): 課外活動等に顕著な功績のある学部生(年額10万円) |
| 5) 歯学部佐藤奨学金(第3種): 海外で開催される学会で研究発表をする2~3年の大学院生(年額上限50万円)(令和3年度は休止) |
| 6) 歯学部同窓会奨学金: 学業優秀で課外活動に顕著な成果を収め学部の発展に貢献した学部生(年額10万円)及び学部学生への学習指導貢献が顕著である大学院生(年額5万円) |
| 7) 日本大学古田奨学金: 学業成績が優秀で人物が優れている大学院生(年額20万円) |
| 8) 日本大学ロバート・F・ケネディ奨学金: 学業成績が優秀で人物が優れている大学院生(年額20万円) |

2. 貸与型奨学金

- | |
|---|
| 1) 日本大学歯学部佐藤奨学金: 人物が優れ、不測の事態により経済的理由等で学業継続が困難な学生(高学年)に対して選考の上、授業料相当額を限度に日本大学歯学部が貸与。 |
| 2) 日本大学歯学部後援会奨学金: 人物が優れており、将来歯科医師として有望であること。経済的理由により学費の納入が困難であり、かつ他の奨学金による支弁が受けられない5年生以上の学生(原則として当該年度の授業料相当額以内)に貸与。 |

3. 学外奨学金

- | |
|--|
| 1) 日本学生支援機構奨学金: 学部生及び大学院生には「第一種(無利子貸与)」、「第二種(有利子貸与)」があり、多くの学生に貸与されている。将来の返還については、次の世代の奨学金となるため、厳格な仕組みで運用されている。また、授業料等減免・給付型奨学金などもあり。詳細は http://www.jasso.go.jp/ を参照。 |
| 2) 森田奨学育英会奨学金: 学部6年生又は大学院4年生で、学業・人物ともに優秀かつ健康と認められる者に対して、選考の上奨学金が給付。 |
| 3) NSKナカニシ財団奨学生: 学部学生および大学院生で、学業・人物ともに優秀かつ、経済的理由によって修学が困難なものに対して、選考の上で奨学金が給付。 |

4. その他の制度

提携教育ローン制度等もあり、上記を含めて詳細の問い合わせは学生課まで。

【問い合わせ先(学生課)】

03-3219-8004 (de.student@nihon-u.ac.jp)

(教授 歯科保存学第I講座)

臨床研修歯科医師選考試験 について

卒後教育担当 武市 収



日本大学歯学部附属歯科病院では、学内での研修の他、協力型施設をはじめ島しょ地区（伊豆諸島）での離島診療研修、保健所および東京都心身障害者福祉センターでの研修など学外での様々な研修プログラムを用意しております。そのため、毎年当歯科病院での研修を希望する歯科医師が多く、年々希望者数が増加しております。当歯科病院で臨床研修を行うためには、当歯科病院で実施する選考試験を受験し、その後マッチングする必要があります。

選考試験として、①書類審査、②面接、③筆記試験を実施いたします。①書類審査では、5年次までの学業成績などが評価されます。また、本学部6年生並びに卒業生については②面接が免除されており、その代わりに在学中の学生生活における生活態度、すなわち「受講態度」、「出欠席状況」、「クラブ活動」、「学内外における学校行事への参加状況」および「表彰歴」などを基に評価します。他大学卒業の受験者については、これまで学んできた母校とは異なる環境で研修を行うことになるため、当歯科病院で研修を行うに足る人物であること、また積極性と協調性を有することなどを重要視しております。

③筆記試験は、本年度は現役生および既卒生と他大生を対象に7月30日（土）に実施いたしました。当歯科病院ではS・C・O・Pコース、Rコース、CDコースを設けており、募集定員は計140名ですが、今年度は214名が本試験を受けました。その後、選考試験の結果をマッチング協会に提出し、10月25日（火）にはマッチング協会から当歯科病院にマッチした140名のリストが送られてきました。これまでに、全員が仮契約を済ませております。

当歯科病院では、学部教育で習得した歯科診療に関する知識、技能および態度を臨床の場に結びつけるシームレスな指導を行っております。皆さんが国家試験に合格し、来年度の歯科医師臨床研修を受けられることをご祈念申し上げます。

（教授 歯科保存学第Ⅱ講座）

随 想

若手研究者はまず国際学会で 発表しよう

白川 哲夫



日本大学に奉職して16年が過ぎ、残すところ数か月である。歯学部卒業から今日までの記憶を辿ると、日常の光景よりも国際学会で訪れた各所の景色のほうが鮮明に思い出される。私の国際学会デビュー

は、大学院3年の時にカナダのケベックで開かれた国際内分泌学会という医科系の学会であった。当時は1ドルが200円前後だったと思う。ケベック滞在中、私はツインの部屋で指導教授と5日間同室させていただいた。のちに北海道大学総長を務められた廣重力教授である。ポスター発表では相当な冷や汗をかいたが、発表後に廣重先生にケベックシティの一角でアイスクリームをご馳走になったことを思い出す。城壁に囲まれた旧市街とその畔を流れるセントローレンス川の夕暮れはとりわけ美しかった。

教員として参加した国際学会のうち、最も参加回数が多いのが北米神経科学学会である。3万人以上が参加するこの学会は、会場がそれに見合った広さを必要とするため開催地が限られる。今は開催地から外れているが、私が最初に発表したのがカリフォルニアのアナハイムであった。ディズニーランドがありエンゼルスの本拠地でもある。ちょうど留学中で、研究室の仲間がオープンカーをレンタルし、空港からホテルまでのやたら道幅があるフリーウェイをすっ飛ばした。ヤシの木が延々と続く道だったと思うが何もかもがアメリカであった。ニューオーリンズやサンディエゴなどでも開催されており、これらの会場は複数回参加した。最後の参加はもう9年も前になってしまったが、当講座の院生のほか生理学講座の篠田教授や補綴学第Ⅰ講座の浦田専任講師（ともに現職名）らも参加され、サンディエゴのレストランで膝をつき合わせて研究手法などを情報交換したことが思い出される。さらに国際学会では運がいいと超大物に出会える。私の後輩で、院生のときにノーベル賞受賞者のワトソン先生とちゃっかりペアでカメラに納まった強者女医がいる。国際学会にはいろんなチャンスが潜んでいる。

（教授 小児歯科学講座）

国試合格のための必要条件

宮崎 洋一



今は昔、数理情報の授業前に別件で学生への連絡のために来ていた〇川M子先生が、数名の学生との雑談の中で何気なく発した一言が印象的だった。「微積分ぐらいできないと、(歯科医師) 国家試験に受からない。」

本学出身の〇川先生は優秀な学生時代を過ごし国家試験も軽々と合格しており、非常に説得力のある体験者としての言葉だ。以来、この言葉は私の中で永久保存の名言として教育上の指導方針となっており、毎年1回目の授業では必ず学生に紹介することになっている。

本学の入試は多様なため、微積分を未習のまま入学して来る学生もいる。そうした学生にとっては不安を抱かせる言葉かもしれない。しかし、その真意は「国試に微積分の問題が出るから微積分の理解が必須」ということではない。言うまでもなく、国試には出題されるのは微積分の問題ではなく、歯科の専門分野の問題である。この言葉の真意は「国試に受かるためには、微積分を学んだならば、微積分を十分理解できるくらいの能力が必要」ということである。

最近、演習の授業で学生を見ていて気になることがある。少し前に学習した基本的な事項が全く抜け落ちていて、その基本事項を知るためにインターネット検索で調べている学生が少なからずいることだ。インターネットで得た知識は間違っていないものの断片的なため、現在学んでいる内容やレベルに適合していないので、そのままの形で受け入れると十分な理解に達しない。教科書のページを少し戻って読み返したほうが効率的だし、理解が深まるように思う。もちろん、細かいところまでキッチリ理解していて、こちらが感心するほどの優秀な学生も見かけるので、本学の未来を考えると非常に心強い。

冒頭に挙げた名言に戻ると、この名言は微積分のところを他の分野名で置き換えても通用する。つまり、学んだことはキッチリ理解すべし、ということになる。その意味では、シラバスなどで「がくしゅう」の漢字が学習から学修に置き換えられるようになったことも肯ける。(教授 数理情報科学分野)

私と不思議な植物たち

深瀬 康公

今ではそのきっかけも定かでなくなりましたが、かなり悩んだ末に決断したのが植物の栽培



でした。マンション住まい故に栽培場所、水やり、近隣への影響などを考えると縁=植物とは縁遠い生活ですので、なおさら

植物が欲しかったのだと思います。そこで選んだのがサボテンなどに代表される多肉植物です。これならば場所も取らず、水やりの手間も他に比べて少なく、とにかく楽チンそうでした。手始めに園芸品種の多肉植物を扱っているネット店舗や栽培農家さんなどから購入するのですが、サンプル画像を見れば見るほど新たに欲しくなってしまう。その訳は、この多肉植物はとつても【不思議な植物】だからなんです。

お気に入りには、Conophytum属、特にブルグリー(burger)です。透明感のあるエメラルドグリーンやルビー色、ゲームでお馴染みの「スライム」のような形状の肥大した1葉のみが地上部分に出ています。「え？」と思わず言ってしまう不思議な形状をしています。Lithops属は2葉の小判型の柱状をしていて、その上面に様々な模様が現れ、色も青～緑～赤、灰色など様々です。岩石の多い乾燥地帯に生息するため「周囲の石に擬態している」とも言われています。模様や色のバリエーションが多く、コレクションとして宝石に例えられます。全く不思議な植物です。Haworthia属は、逆さにした水滴状の肥大した葉だけの集合体で、それぞれの葉の先端が透明な窓になっています。植物らしい感じが少しはしますが、「葉が透明?」と思ってしまう。

これらの多くは乾燥した地域に生息しており、この不思議さは環境によって進化した結果なのです。それにしても不思議な植物達です。この不思議さの多様性が私の好奇心をそそり、また心を癒やしてくれます。そんな訳でこれからもますます個体数が増えてしまいそうです。(専任講師 歯科理工学講座)

桜歯祭を終えて



実行委員長 大友 侑

実に三年ぶりの桜歯祭が無事幕を閉じました。今年のテーマは「新生桜歯祭～ReGeneration～」であり、例年よりも短い開催時間にもかかわらず、二日間とも活気に溢れた素晴らしい桜歯祭となりました。

情勢を鑑みての準備ではありましたが、大きな問題もなく、三年ぶりの桜歯祭を楽しんでいる学生たち、今年初めて桜歯祭を経験した後輩たちの楽しそうな笑顔や、心から楽しんでいる光景は今もなお忘れられません。このように大団円で終えることができたのは、先生方ならびに職員の方々のご指導、また、みんなで力を合わせて頑張った桜歯祭実行委員の同輩や後輩のおかげです。参加してくれた学生のみんなは勿論のこと、当日来場して下さったお客様、そして桜歯祭に携わって下さったすべての方々に心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。(第4学年)

実行委員 田口 歩実

パンフレット制作を任された当初は、桜歯祭が本当に開催されるのか定かではなく、あまり気乗りしませんでした。しかし、来年度以降に引き継ぐためにも最大限にできることをしたいという委員長の田友さんの意志に共感し、私にできることは何かと考え、デザイン担当することを決めました。表紙の絵では、光を中心に6人が前を見据えています。初めて桜歯祭に参加する後輩達、開催ができなかった先輩方を含め、歯学部生6学年の全員で、ここを新たなスタート地点として桜歯祭という一つの目的を成功させたいという思いを込めて描きました。様々な困難や苦勞を乗り越えてやっと実現した今年の桜歯祭ですが、この3年間の私たちの思いが少しでも伝わっていただければいいなと思います。(第4学年)

いちにち歯医者さんを 終えて



企画長 坂口 結菜

3年ぶりに「いちにち歯医者さん」を開催しました。「いちにち歯医者さん」では歯科治療の体験や歯科材料を用いた企画を行いました。今年は新型コロナウイルス感染症対策のため、例年よりも時間を短縮して開催しましたが、2日間で約200人もの方々に来場して頂きました。来場者の方々には企画を体験して頂くことで普段触れることのない歯科の世界をより一層身近に感じて頂けたかと思えます。3年ぶりの開催ということで準備の段階で不安なことが沢山ありましたが、教員の皆様をはじめ、事務の方々、諸先輩方、そして実行委員のみんなのおかげで素晴らしい企画を作り上げることができました。本当にありがとうございました。来年度も今年の反省点を活かしより良いものとなるよう引き継いで行きたいと思えます。(第5学年)

3年ぶりに「いちにち歯医者さん」を開催しました。「いちにち歯医者さん」では歯科治療の体験や歯科材料を用いた企画を行いました。今年は新型コロナウイルス感染症対策のため、例年よりも時間を短縮して開催しましたが、2日間で約200人もの方々に来場して頂きました。来場者の方々には企画を体験して頂くことで普段触れることのない歯科の世界をより一層身近に感じて頂けたかと思えます。3年ぶりの開催ということで準備の段階で不安なことが沢山ありましたが、教員の皆様をはじめ、事務の方々、諸先輩方、そして実行委員のみんなのおかげで素晴らしい企画を作り上げることができました。本当にありがとうございました。来年度も今年の反省点を活かしより良いものとなるよう引き継いで行きたいと思えます。(第5学年)



デザイン 田口歩実さん

駿技祭を終えて



実行委員長 園田 結菜

今回の駿技祭では、歯科技工物の展示と歯科技工関連グッズを製作し、販売を行いました。

歯科技工関連グッズとして、歯型マグネット、シルバーアクセサリ、ハンドタオル等を製作し、

前回の駿技祭で人気だったミニチュア義歯ストラップについては今年も好評を得ることができました。

この度は新型コロナウイルスの影響により3年ぶりの開催となりましたが、たくさんの方にご来場頂き大変感謝しております。

この行事を通して学年を超えた親交が深まり、文化祭とともに作り上げられたことはとても良い経験となりました。

駿技祭の運営にあたり、ご協力いただきました教職員の方をはじめ、桜歯祭実行委員のみなさま、全ての方に心より御礼申し上げます。

(技工専門学校第2学年)

翔衛祭を終えて



実行委員長 荒井 美寿々

翔衛祭ではアロマストーンの販売・手作り体験の企画を行いました。色とりどりで可愛いアロマストーンの販売は、衛生専門学校らしい企画であったと思います。ご来場いただいた皆様からも好評を得ることが

できました。また手作り体験でも多くの方がご参加くださいました。ありがとうございました。

今年度の翔衛祭は2年生のみでの企画・運営となりましたが、今回の反省点を生かし来年はより良いものとなるよう後輩に引き継いでまいりたいと思います。

翔衛祭運営にあたり、様々な方と交流することができ大変貴重な経験となりました。ご協力いただきました先生方、桜歯祭実行委員、衛校生、全ての方に心より御礼申し上げます。

(衛生専門学校第2学年)

桜歯祭 新企画 「オープンキャンパス」を実施して

西出 怜央

新校舎披露を望む声にお応えしようと、桜歯祭と併せて学生のご親族や本学部を志願する方向けにオープンキャンパスを実施した。私たち3年生にとっては初めての桜歯祭での新企画、短期間での準備、周知不足などの不安が多かった。参加者が集まるのか、急なお願いに応じてくれた案内担当の学生有志が手持ち無沙汰にならぬかと、当日ギリギリまで心中穏やかでなかった。



しかし、始めてみると少しずつ希望者が集まり始め、喜びと安堵の思いで案内役を送り出した瞬間は忘れられない。

途中、リーダーの私が他の任務で現場を抜けることもあったが、案内役の臨機応

変な対応、礼儀正しく丁寧な立ち居振る舞いに、安心してその場をお願いすることができた。

この日は20名以上の参加者に最新の設備を誇る校舎を1対1でご案内できた。参加者の反応は総じて好評で、初の企画としては成功したのではないだろうか。

来年の桜歯祭では、このオープンキャンパスをもっと多くの人たちに、さらに有意義に楽しんでいただけるよう準備を進めていきたい。



最後に、ご尽力いただいた竹内義真先生、企画成功の立役者の10名の案内役学生有志、受付担当の4名の桜歯祭実行委員、そして学生課の皆さま、ありがとうございました。

来年も、魅力ある日大歯学部をみんなで発信していけたらと願っています。

(第3学年)

クラブ短信

コロナ禍で中止されていたクラブ活動が再開しつつあります。前号(216号、2022.10.15発刊)、本号にわたり、最新のクラブ情報をお伝えします。本号では、歯学体冬期部門及び文化会のクラブを紹介いたします。

アイスホッケー部

主将 長岡 泰樹

アイスホッケー部は月2回(土・日)練習を行っています。コロナ禍によって活動できない日々が続いておりましたが、今年5月から3年ぶりに部活動を再開し、学生らしい日々を取り戻せ始めたとしみじみ感じています。

現在、1年4名・2年2名・3年3名・4年4名・5年2名・衛専2年1名の計16名で活動しています。7月末に山梨の甲府にて合宿を行い、アイスホッケーの楽しさを知ると共にチームの親睦を深められました。活動できるプレイヤーが少なく、さらに初心者が多い中、9月に行われた他大学との練習試合では、3-3で引き分けという結果でした。あと一步という悔しい結果ではありましたが、部員一同、チームの可能性を感じ、更に団結力を高めることが出来ました。今後とも部員一丸となって目標に向けて取り組んでいこうと考えています。(第3学年)



アメリカンフットボール部

主将 中町 喜直

アメフト部は医学部板橋グラウンドにおいて、医学部と合同で週3回(水・金・土)の活動を行っています。今年度は1年生5人、2年生3人のプレイヤーが入部してくれました。

コロナ禍で2年以上活動ができなかった為、今年度のスローガンは「チームの再生」を掲げて練習を行

いました。下級生への指導は、4年生がいなかったため大変な面も有りましたが、後期に入ると着実に技術を習得し、目を見張るものがありました。10,12月の公式戦でも練習の成果を発揮出来ていたと思うので、今後も彼らの成長を見守りたいと考えております。

最後に、OB・OGの先生方や保護者の方たちによる多大な御支援により、部の運営が出来ていることにお礼を申し上げます。今後とも部の発展に尽力して参りますので、応援よろしく願いいたします。(第5学年)



自動車部

主将 馬淵 久登

自動車部は月2回隔週のペースで活動をしています。活動内容はカート、ドライブ、車整備など部員と話し合って毎回決めていきます。普段の活動は部員との交流が多く楽しい活動になっていると思います。



他にも、今年からはコロナ前と同じく5月にはカート大会、7月にはジムカーナ、8月にはサーキット、ジムカーナと言った大会が開催されました。大会の際は多くのOG、OBの先生方も協力してくださるので、非常に良い経験となりました。

今後も冬の大会や合宿などの開催を予定していますので、その練習も行いながらも、多くの部員が参加しやすいような活動を行っていきます。(第4学年)

スキー部

主将 名取 秀悟

スキー部は、冬季に開催されるオール日大、歯学体の2大会に出場するため、オフシーズンには、週1・2回の基礎トレーニングを中心にした活動を行っております。活動内容は、オフシーズンはランニングやインラインスケート、フットサルなど、スキーシーズンには、スキー場での合宿を通して、専属のコーチによる実践的なスキーはもとより、基礎的なトレーニングを行っております。部員も未経験者が多く在籍し、初心者でも問題なく活動しております。

合宿や大会も、スキー場で宿泊を伴い行われるため、部員同士の交流が深まるだけでなく、他大学のスキー部の方々と交流する機会も多く、楽しいクラブ活動を行っております。(第4学年)



ラグビー部

主将 松浦 孝将

現在、部員の減少を補うために防衛医科大学校とともに練習・試合を行っております。同大メンバーはこれまで5年間、我々を快く受け入れてくれております。この繋がりにより、自分達の視野は広まり、将来医療人になるという目標を深く共有しつつ非常に充実した日々を総勢30名で楽しく送ることができております。他大学学生でも試合に参加でき、大会では優勝する喜びを味わう事もできております。ここ数年、歯学部ラグビー部のメンバーは全員進級

をしており、互いにサポートしながら活動しております。このような環境で充実した学生生活を送りたい学生、体を動かしたい・鍛えたい学生、他のクラブに所属していても兼部で参加してみたい学生は是非とも一緒にラグビーやりませんか！



(第6学年)

奇術部

主将 大友 侑

奇術部は週に1度の活動で活動日は部員の兼部先との日程をすり合わせて決めており、今年の活動日は水曜日となっています。活動内容は主に上級生が下級生にマジックを指導し、部活の最後にその日学んだマジックを披露しています。本年度は実に3年ぶりの桜歯祭が開催され、奇術部は1日目にステージマジックとテーブルマジック、2日目にサロンマジックとテーブルマジックを披露し、目玉のステージとサロンも大成功しました！特にサロンは部員が増えたことで例年とは違う午前と午後の2部構成で行うことができ大盛況に終わられました。このように対面での部活動が再開したことで止まっていた部活のあの充実した時間が帰ってきたように嬉しく、部活動中は笑顔で溢れ、とても楽しくマジックしています！

(第4学年)



軽音楽部

主将 大類 迪

軽音楽部は、1～3年生合わせて13名の新入生を迎えての部活動再開となりました。

初めは、コロナの影響や部室が狭くなった事もあり例年よりも部室の使用頻度が下がり、部員同士の交流が少なくなってしまうのではないかと懸念がありました。しかし、マスク着用や消毒などの感染対策を徹底してのコロナ後初のライブを2回も開催し成功させることができました。その練習期間やライブ当日で部員同士かなり打ち解けたようで、そういった意味でもライブは成功したのではないかと考えています。来年春には合宿の予定もあるため、さらに部活動を活発に行なっていけるように感染対策を徹底しつつ楽しんでいけたらと思います。

(第4学年)



茶道部

主将 山内 杏子

今年度茶道部には1年生2人、2年生5人、3年生1人の8人が入部してくれました。現在計10人で活動しています。

普段の活動は例年通り毎週金曜日の放課後にお茶の先生をお呼びして、三大学合同で行う靖国茶会、桜歯祭でのお茶会に向けてのお点前の練習をしています。

毎週のお稽古では美味しいお菓子とお抹茶を堪能しながら楽しく活動しています。部員は活動を通して、礼儀作法を身につけたり、日本の伝統文化に触れることもできます。

残念ながら、今年度はコロナ禍ということでどちらのお茶会も開催することが出来ませんでした。来年度にある靖国茶会、桜歯祭茶会でお客さまにお披露目できることを願い、部員一同日々精進してまいります。

(第4学年)



写真部

主将 加島 みのり

写真部は50人を越える新入生を迎え入れ、現在は66人が所属しています。

夏合宿・春秋の撮影会・桜歯祭での写真展示等例年通りの活動に加えて、今年度は冬にも撮影会を設けました。

大人数を率いる行事を計画することは決して一筋縄で行くものではありませんでしたが、上級学年としての経験にやりがいを感じると共に、今まで先生方・先輩方にたくさんお世話になりながら学校生活を送っていたことに改めて気がつき、心から感謝の気持ちを抱きました。

我々4年生は後輩と関わる機会が今年度が初であったため、学年を超えた交流を楽しみつつ、前向きに部活動に取り組んで参りました。来年度以降の幹部にも、長く続いてきた写真部の活動を引き継いでいけたらと思います。

(第4学年)



生物部

主将 石川 拓暉

生物部はコロナ禍により今までの勧誘とは違い、制限がたくさんあるなかで1年生6人、2年生9人

と多くの方が新しく入部してくれました。

今年の5月に部活動が、制限下ではあるものの解禁されたことにより、上野動物園に行くことができました。それにより3年ぶりに部員同士の交流を行うことができました。

また、7月には2泊3日のダイビング合宿をしました。久しぶりの合宿であることとコロナ禍で至らぬ点多々ありましたが多くの1、2年生が楽しそうにダイビングの免許をとった姿を見て安心しました。

最近また感染者が増え続けていますがこれからも生物の観察を通じ、多くの部員と交流をしていきたいと思います。
(第4学年)



東洋医学研究部

主将 富樫 萌音

東医研では多くの部員を迎え、コロナ禍で制限がある中で活動を再スタートさせました。部活動自体は不定期ですが、学年を超えて交流することができ、主将として喜びを感じています。3年ぶりの開催となった桜歯祭では例年の展示に加え、ハーバリウムの体験会を行いました。

部員で買い出しを行い、当日は実際にハーバリウムの製作と好きなアロマオイル香りつけてもらうといった体験型の新たな試みを行いました。部員の協力もあり大盛況のうちに終わり、来年度以降の桜歯祭での部活動企画の幅を広げる良い機会となりました。



た。来年度はハーブティーの試飲会や部活動としてワークショップに出かけたりとより幅が広がることを期待しています。
(第5学年)

美術部

主将 橋本 紋伽

2019年、突如として現れた新型コロナウイルス、早いものであれから3年とちょっとの年月が経ちました。皆様は、如何お過ごしでしょうか。私たち学生の学校生活はガラリと変わり部活動ができない日々が続きましたが、2022年やっとの思いで再開することができました！未だ、以前の様にはいきませんが美術部では新入部員も迎え、一年の活動の成果をお見せする場でもある桜歯祭も無事に行えた事を嬉しく思います。最初は、はじめての事だらけで部員も戸惑ったとは思いますが、互いに協力し合っってコロナ禍での部活動の在り方を見出せた気がします。今年も更により良い部活になる様に部員一同精進していきたいです。
(第4学年)



無線部

主将 山中 健太郎

本年度は3年ぶりにクラブ活動が再開されました。勧誘が始まるまで、先輩方が部を卒業された影響で部員3人と廃部の危機となっていました。しかし、新部員が9名も入り以前のような活気を取り戻した



ことを嬉しく思います。無線部の主となる活動は桜歯祭での部誌展示となります。今年度は桜歯祭も久しぶりに開催されたため、3年ぶりに部員一同で部誌の製作に取り掛かることができました。製作するにあたり、部員同士の仲が深まったのは良かったです。

まだまだ続くコロナ禍、感染対策に気を付けながら、楽しく部活動を行なっていきます。(第4学年)

ワンダーフォーゲル部

主将 眞野 健

本年度では新入部員が10名も加わり、現在計16名で活動しております。普段の活動は毎週火曜日に山登りのためのトレーニングやミーティングを行っております。今年度の夏合宿では河口湖へ行く予定でしたが、コロナ感染者数を鑑み、中止することとなりました。来年度は是非ともリベンジをしたいと考えております。また、桜歯祭では残念ながら飲食禁止のため恒例のおでん屋を出店できませんでしたが、射的の屋台で多くの方々楽しんで頂きました。コロナ禍による制限の中でも楽しく活動出来ているのはOB、OGの方々のご支援のおかげであることを肝に銘じ、部員全員でワンダーフォーゲル部を盛り上げていきます。

これからもご指導ご鞭撻のほどをよろしくお願いたします。(第4学年)



ダンス同好会

主将 石田 大

ダンス同好会は、今年度に設立されたばかりの同好会です。コロナウイルスの影響により、まだまだ油断の出来ない状況が続いていますが、毎年行われる桜歯祭でのステージ公演をひとつの目標として、週に1～2回程活動しています。また当同好会は、UDM(医療系大学ダンス連盟)の窓口としての機能もあり、桜歯祭ステージ以外にも、ショーケースやワークショップ等、個人のモチベーションに応じて

活動の場を拡げることが出来ます。現在の部員は、ダンス経験者も初心者もおり、能力に関わらず楽しく活動できる環境となっています。

新入生、在校生ともに、部員は随時募集しておりますので、いつでも体験にお越しください。最後に、設立にあたり多大なるご協力を頂きました先生方、クラブ協議会の皆様、誠にありがとうございました。(第2学年)



釣り同好会

主将 濱崎 竜一

本同好会は今年度より新しく活動を始めました。現在会員は25名で月1回の活動を目安に、海や溪流などで釣りを行っています。釣りについての初心者も多いですが、知識や経験そして技術を持っている上級生がサポートすることでみんな楽しく活動しています。自然の中での活動は素晴らしく、魚が釣れた時の醍醐味は最高です。また、メインの釣りの他にもさまざまなアウトドア活動を行うとともに、学生生活や勉強のサポートを含め先輩後輩の枠を超えた繋がりを大切にしています。今後、新入生や在校生にも魅力を感じてもらって会員を増やしつつ、活動を継続して部への昇格を目指して頑張りたいです。よろしくお願いいたします。(第3学年)



リーダーズキャンプ

昨年11月5日、リーダーズキャンプが開催されました。学生の意思決定最高機関としての学生会の委員が、意見交換や討議をおこない、学生生活をより良くしていくための集中討議をおこないました。今回は学生会、クラブ協議会、球技大会実行委員会、桜歯祭実行委員会に分かれ、今年度の反省や次年度の活動計画、学部への要望などについて話し合いがなされました。

学生会では、各学年の代表者が集まり、学生同士の自主的な学修活動の報告がなされ、学生生活や授業、施設・設備に対する要望について意見交換をおこないました。クラブ協議会では、部室やウェイトルームの使用や次年度のクラブガイダンス・勧誘、上級学年のクラブ活動への参加、物品購入について協議しました。それぞれ3年ぶりの開催となった球技大会、桜歯祭の実行委員会では、今年度の反省を活かし、次年度に向けてより充実した内容にすべく引継ぎがなされました。

11月28日には、学生から学生担当、学生生活委員会委員、学生課担当者に向けてリーダーズキャンプで話し合われた内容についての報告会が開かれました。教職員が学生の意見・要望を把握し、今後の改善につなげていくうえで貴重な時間となりました。



イルミネーション点灯式

令和4年11月30日（水）17時30分から本館1階中庭デッキにおいて点灯式が開催された。サンタの帽子を被った宮崎学生担当や学生会の学生、その他多くの学生、教職員が待機する中、クリスマスソングとともに、サンタクロースに扮した本田学部長が登場し、参加者からは驚きと喜びの声が溢れた。植栽のネオンやクリスマスツリーのライトが一斉に点灯し、いつもの景色がクリスマス様に早変わりして、歓声と大きな拍手が沸き起こった。



教育診療医研修会

本吉 満

令和4年度教育診療医研修会が9月16日に開催され、「POS実習について」と「国家試験低正答率問題への対策について」の2つのテーマについて討議されました。午前中は、診療参加型臨床実習におけるPOS実習の学修内容や指導方法、評価方法などを検証し、必要な改善策が検討されました。午後は診療参加型臨床実習における質の高い教育方法を検証し、国家試験問題の理解につながる改善策が検討されました。それぞれのテーマについて各班で活発な討議の後、成果発表が行われました。その後、各班内でブラッシュアップが行われ、11月25日に最終



案の報告会が行われました。いずれのテーマも歯学生が受ける公的

試験に対応するにあたり、重要な課題であり、本会で得られた成果が、学生への教育指導方法における各教育診療医の公正化に役立つことを願っています。

(教授 歯科矯正学講座)

令和4年度 学生FD CHAmiT

江島 堅一郎

本年度で10回目を数える学生FD CHAmiTは、対面とオンラインの初のハイブリッド形式で開催されました。本年度は、「あなたにとって、大学とは何ですか?」がテーマとして設定されました。

グループワークは3回実施され、1回目は学部混合で、「大学で、何を、何のためにどのように学びたいと思われましたか?」を、2、



3回目は各学部単位で、「思い描いた大学生活を送っていますか?」、「あなたにとって、大学とは何ですか?」について、討論が行われ、問題点や本学を理想の大学にするための提案書が作成されました。

学生、教職員が一体となって作成された提案書が、今後、本学の新たな発展に活用されることを切に願うばかりです。(専任講師 歯科放射線学講座)

父母懇談会開催

令和4年10月15日(土)本館において、3年ぶりに個人面談が開催された。直前の日程変更があったにも関わらず、252名の父母が来校され、学年主任・クラス担任ほか多数の先生方による学年別個人面談が行われ、子女の学生生活や出席状況等の話がされた。



解剖体追悼法要

令和4年10月29日(土)14時から築地本願寺にて、松戸歯学部と合同の解剖体追悼法要が行われた。昨年に引き続き、新型コロナウイルスの影響に伴い、参列する御遺族の安全を考慮し、学内関係者のみで執り行った。歯学部からは、本田和也歯学部長、筒井仁事務局長、高橋富久教授(解剖学第I講座)が参列した。

なお、本年度の追悼法要は御遺族が御自宅で参拝いただけるようオンライン配信を行った。

佐藤会

令和4年11月12日(土)に、本学部創設者の佐藤運雄先生のご遺徳を称えて毎年開催されている佐藤会が行われた。当日は本学部ならびに同窓会より役教職員が佐藤先生の菩提寺の青松寺へ墓参し、13時から式典を大会議室で挙行了。同窓会員と関係者が参集し、叙勲者紹介、名誉会員記贈呈、佐藤賞授与が行われた。本年度の佐藤賞は学内から高山忠裕先生(歯科保存学第Ⅲ講座准教授 学49)「骨形成関連成長因子添加コラーゲンメンブレンの開発」、学外から北野尚孝先生(学48)「Efficient nonviral gene therapy with FasL and Del1 fragments in mice」に授与された。

■ 附属専門学校から

歯科技工専門学校

1号館からの引越しも無事に終了し、講義は3号館、歯科技工実習は本館で対面にて行っております(写真)。教員、学生も環境の変化にだいぶ慣れてきた様子です。10月には、久しぶりに駿技祭も催され、義歯のミニチュア模型製作販売など学生も良い経験になったと思います。3年生は、11月に全国歯科技工士教育協議会主催の実技評価試験を終え、いよいよ卒業と国家試験に向けて、ラストスパートに入ってきました。3月の卒業式には全員国家試験に合格して春を迎えたいと思います。



第3学年 実技評価試験の様子

歯科衛生専門学校

令和4年11月1日に、百周年記念講堂にて歯科衛生専門学校第64期生(2年生)の戴帽式を執り行いました。本年におきましても昨年同様に、新型コロナウイルス感染拡大予防の観点から、3密を避けた略式での執り行いとなりました。戴帽者の呼名を行った後に、校長式辞、歯学部長告辞、病院長訓辞、そして最後に校歌静聴を行い、厳粛な雰囲気の中で式は終了しました。戴帽式を経て、2年生ではいよいよ病院実習も始まり、緊張の中で過ごしながらも、将来自身が目指す歯科衛生士像を頭に描きながら充実した日々を過ごしています。また3年生は国家試験全員合格を目指して忙しい毎日を送っています。教職員一同、歯科衛生専門学校生が毎日充実したキャンパスライフを過ごせるように、全力でサポート、および応援をしていきます。



NewsPlus α

☆日本大学歯学部桜駿会からご寄贈いただきました

日本大学歯学部桜駿会から、本館1階大学ホールにサイネージ付ディスプレイ、本館地下1階女子ロッカールームに額入りエッチングミラーをご寄贈いただきました。

サイネージ付ディスプレイでは、歯学部情報を流しています。



☆モバイルバッテリーレンタルスポットについて

本館1階エレベーター前および3号館1階教務課前にモバイルバッテリーレンタルスポットが設置されています。適宜ご利用ください。



☆図書館開館時間について

昨年11月1日(火)から本年1月27日(金)まで歯科医師国家対策期間として、開館時間が9時~22時になります。

学 事

令和5年度入学者選抜

【一般選抜 (N全学統一方式第1期)〈日本大学が実施する試験〉】

- ◆募集人数 7名
 - ◆出願期間 令和5年1月5日(木)～1月20日(金)
 - ◆試験期日 令和5年2月1日(水)
 - ◆合格発表 令和5年2月10日(金)
 - ◆入学検定料 24,000円
 - ◆選考方法 ①数学①「数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学A・数学B(確率分布と統計的な推測を除く)」②理科「物理基礎・物理」、「化学基礎・化学」、「生物基礎・生物」のうちから1科目選択
③外国語「コミュニケーション英語Ⅰ・コミュニケーション英語Ⅱ・コミュニケーション英語Ⅲ・英語表現Ⅰ・英語表現Ⅱ」
- ※理科において、医学部を併願している場合は、第1解答科目のみを合否判定に使用する。
※合否判定は標準化得点で行う。

【一般選抜 (N全学統一方式第2期)〈日本大学が実施する試験〉】

- ◆募集人数 3名
 - ◆出願期間 令和5年1月5日(木)～2月24日(金)
 - ◆試験期日 令和5年3月4日(土)
 - ◆合格発表 令和5年3月13日(月)
 - ◆入学検定料 24,000円
 - ◆選考方法 ①数学①「数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学A・数学B(確率分布と統計的な推測を除く)」②理科「物理基礎・物理」、「化学基礎・化学」、「生物基礎・生物」のうちから1科目選択
③外国語「コミュニケーション英語Ⅰ・コミュニケーション英語Ⅱ・コミュニケーション英語Ⅲ・英語表現Ⅰ・英語表現Ⅱ」
- ※理科において、医学部を併願している場合は、第1解答科目のみを合否判定に使用する。
※合否判定は標準化得点で行う。

【一般選抜 (A個別方式)〈歯学部が実施する試験〉】

- ◆募集人数 57名
 - ◆出願期間 令和5年1月5日(木)～1月20日(金)
 - ◆試験期日 令和5年2月3日(金)
 - ◆合格発表 令和5年2月10日(金)
 - ◆入学検定料 50,000円
 - ◆選考方法 ①数学「数学Ⅰ・数学Ⅱ」②理科「物理基礎・物理」、「化学基礎・化学」、「生物基礎・生物」のうちから1科目選択
③外国語「コミュニケーション英語Ⅰ・コミュニケーション英語Ⅱ・コミュニケーション英語Ⅲ」④小論文(60分・字数は当日指定)⑤面接
- ※理科の選択科目において、平均点に20点以上の差が生じた場合は、得点調整を行う。
※合否判定は素点で行う。

【一般選抜 (C共通テスト利用方式第1期)〈大学入学共通テストを利用する試験〉】

- ◆募集人数 10名
 - ◆出願期間 令和5年1月5日(木)～1月20日(金)
 - ◆試験期日 ◇大学入学共通テスト
令和5年1月14・15日(土・日)
 - ◆合格発表 令和5年2月16日(木)
 - ◆入学検定料 24,000円
 - ◆選考方法
◇大学入学共通テストでは、下記の教科・科目を受験すること。
①国語「近代以降の文章のみ利用」②理科「物理」「化学」「生物」のうちから1科目選択 ③外国語「英語」
- ※理科(基礎を付していない科目)において、2科目受験した場合は、第1解答科目のみを合否判定に使用する。外国語「英語」において、リスニングの成績は利用しない。

【一般選抜 (C共通テスト利用方式第2期)〈大学入学共通テストを利用する試験〉】

- ◆募集人数 2名
 - ◆出願期間 令和5年1月5日(木)～2月17日(金)
 - ◆試験期日 ◇大学入学共通テスト
令和5年1月14・15日(土・日)
 - ◆合格発表 令和5年3月2日(木)
 - ◆入学検定料 24,000円
 - ◆選考方法
◇大学入学共通テストでは、下記の教科・科目を受験すること。①理科「物理」「化学」「生物」のうちから1科目選択②外国語「英語」
- ※理科(基礎を付していない科目)において、2科目受験した場合は、第1解答科目のみを合否判定に使用する。外国語「英語」において、リスニングの成績は利用しない。

お知らせ

歯学部行事予定

1月	24日(火)	第5学年一斉技能試験(C S X)
	27日(金)	第4学年C B T
	28日(土)・29日(日)	第116回歯科医師国家試験
2月	1日(水)	一般選抜(N全学統一方式第1期)
	3日(金)	一般選抜(A個別方式)
	10日(金)	一般選抜(N全学統一方式第1期、A個別方式)合格者発表
	16日(木)	一般選抜(C共通テスト利用方式第1期)合格者発表
	18日(土)	第4学年O S C E
3月	1日(水)	第4学年C B T 追・再試験
	2日(木)	一般選抜(C共通テスト利用方式第2期)合格者発表
	4日(土)	大学院入学試験(第2期)・一般選抜(N全学統一方式第2期)
	9日(木)	進級者発表第1～3学年
	13日(月)	大学院入学試験(第2期)合格者発表 一般選抜(N全学統一方式第2期)合格者発表
	16日(木)	第116回歯科医師国家試験合格発表
	18日(土)	進級者発表第4～5学年
	25日(土)	日本大学歯学部卒業式・学位記伝達式

寄付金の受け入れ

= 研究助成金 =

60万円	株式会社ジーシー 歯科保存学第I講座へ (代表取締役社長 中尾 潔貴 殿)	8.25
20万円	水村 和枝 殿 生理学講座へ	9.26
50万円	クラレノリタケデンタル株式会社 歯科保存学第I講座へ (代表取締役社長 山口 里志 殿)	9.30
50万円	クラレノリタケデンタル株式会社 歯科補綴学第III講座へ (代表取締役社長 山口 里志 殿)	9.30
10万円	一丸ファルコス株式会社 感染症免疫学講座へ (開発部長 田中 清隆 殿)	12.2

編集後記

新年あけましておめでとうございます。昨年11月20日～12月18日にかけてFIFAワールドカップがカタールで開催されました。本稿執筆時点では日本代表チームはベスト8入りをかけてクロアチアと戦う直前であり、念願成就を期待したいものです。さて、念願成就といいますと、11月に本学では学生さん待望の桜歯祭が3年ぶりに開催されました。若干の規模縮小があったとはいえ、記事の中にもあるように各種イベントは盛況だったようです。当日の様子を拝見しましたが、運営委員と参加者が楽しそうに現場でコミュニケーションを取っている姿が印象的でした。デジタル機器の発展により遠隔ツールを用いたコミュニケーションがたやすくなっている今日この頃ですが、医療従事者としては眼前にいらっしゃる患者さんとの対話が必須であります。今後の学内外での課外活動が学生さんたちの対面コミュニケーション能力の向上に役立つことを期待しております。 (H.S)

表紙の写真は加島みのりさん（歯学部第4学年）にご提供頂きました。

第217号 日本大学歯学部発行
東京都千代田区神田駿河台1-8-13 TEL 03 (3219) 8001